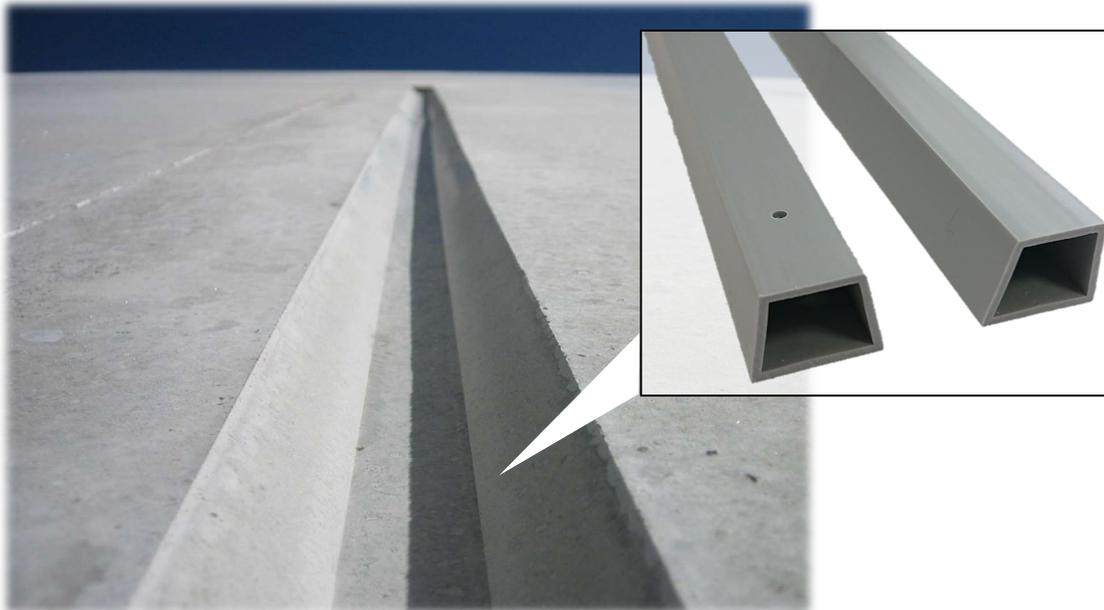


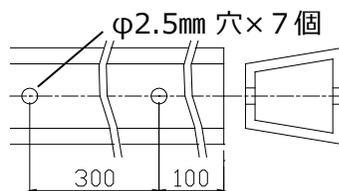
- ひび割れをコントロールする
- コンクリート目地がきれいに仕上がる



特長

- ひび割れの位置をコントロールすることができる
- 脱型しやすく目地がきれいに仕上がる
- 軽くて高強度なので扱いやすい
- 吸水しないので変形しない
- 穴があるので固定しやすい

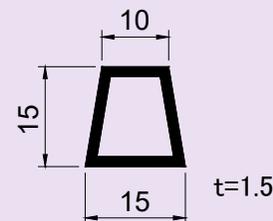
穴加工図



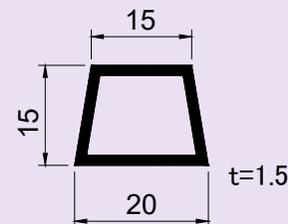
● 製品図

左右対称

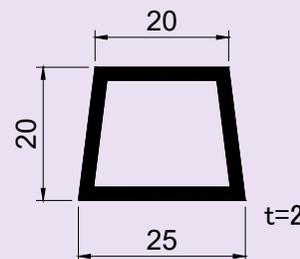
M-15V



M-20V

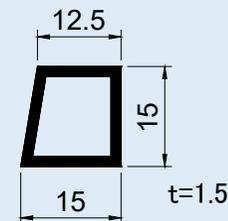


M-25V

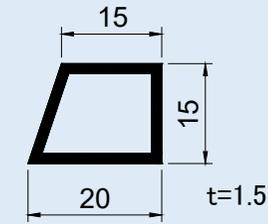


左右非対称

K-15V



K-20V



- 材質 : PVC
- 長さ : 2,000mm
- 数量 : 100本
(M-25V以外)
50本
(M-25Vのみ)

●目地棒の目的

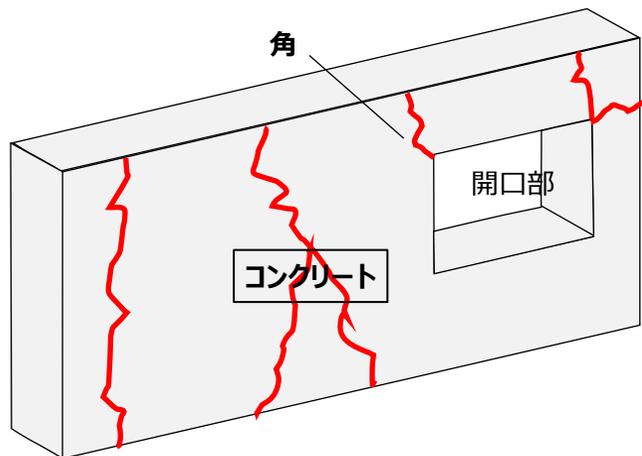
コンクリートやモルタルのひび割れをコントロールするため

コンクリートやモルタルが乾いていくと・・・

<溝がない壁>

ランダムにひび割れる

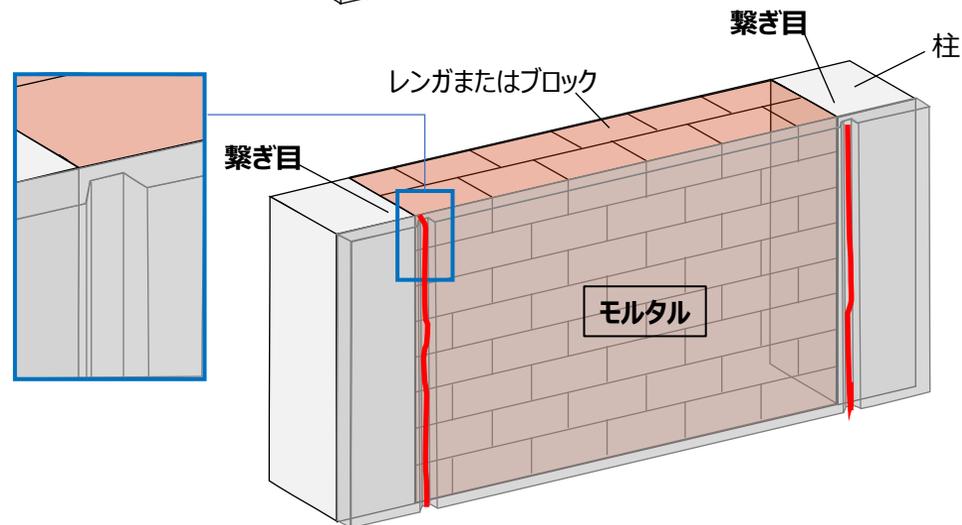
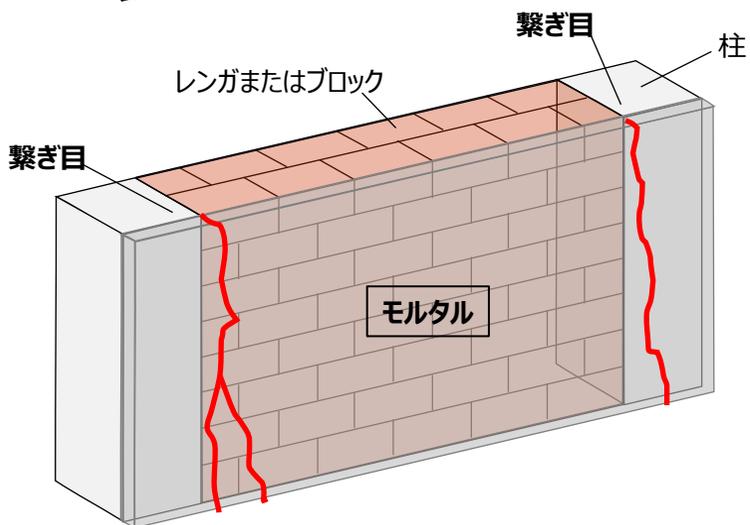
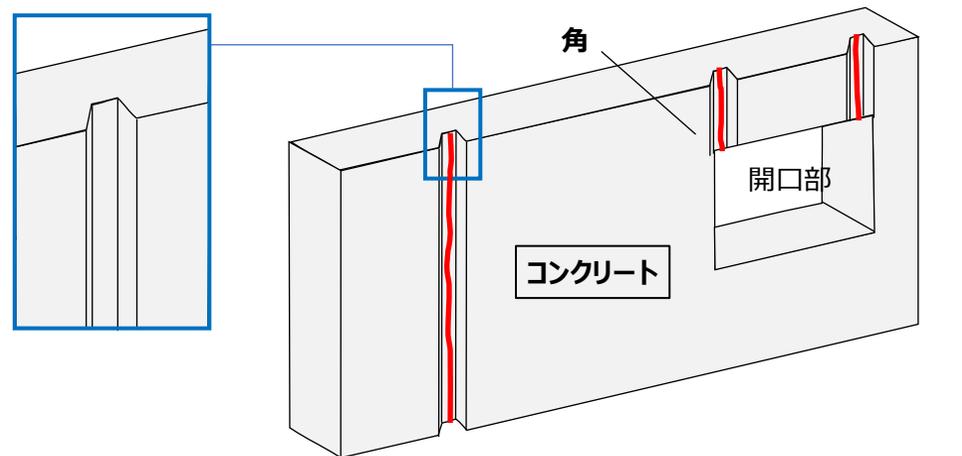
見た目が悪い



<溝がある壁>

溝の中にひび割れができる

見た目が良い



●目地棒の目的

意匠として見せるため



溝



溝

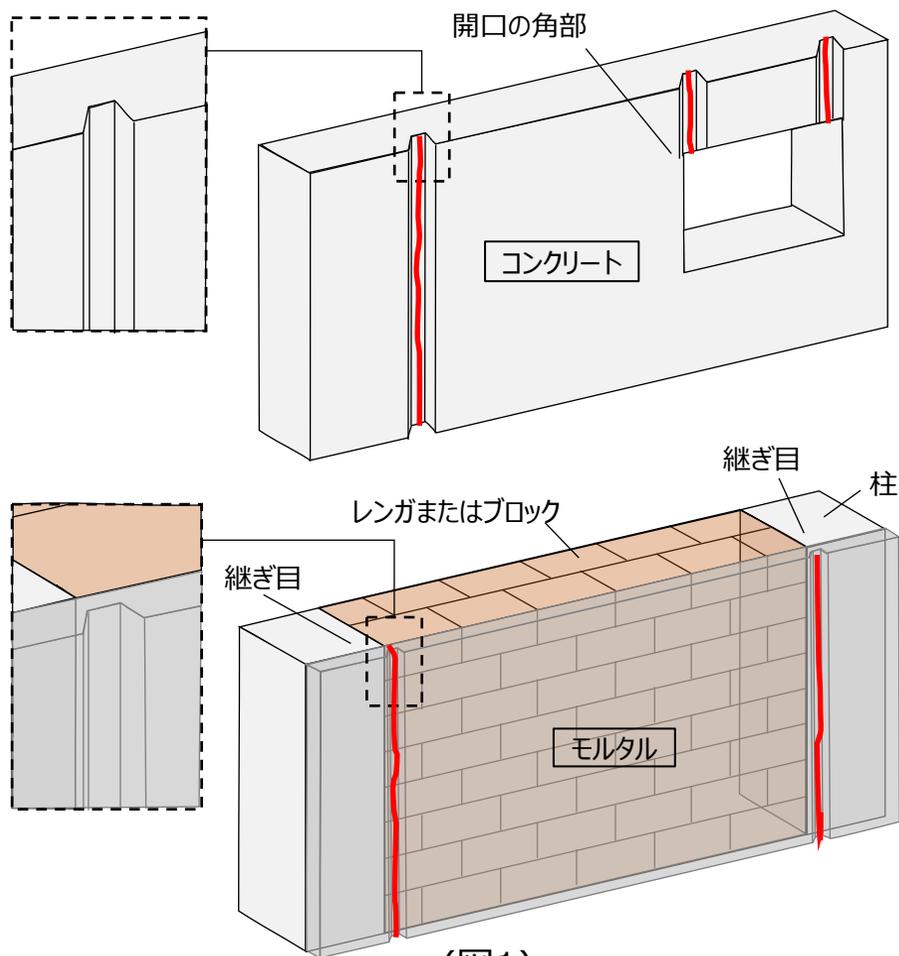
● 目地棒形状による用途の違い

左右対称 製品の用途



ケース 1 コンクリートやモルタルの壁は一般にランダムにひび割れが発生する傾向があります。ひび割れの発生位置を制御するために溝を設けます。(図1)

ケース 2 コンクリートやモルタルの壁にデザインを組み込むために溝を設けます。(図2)



(図1)



(図2)

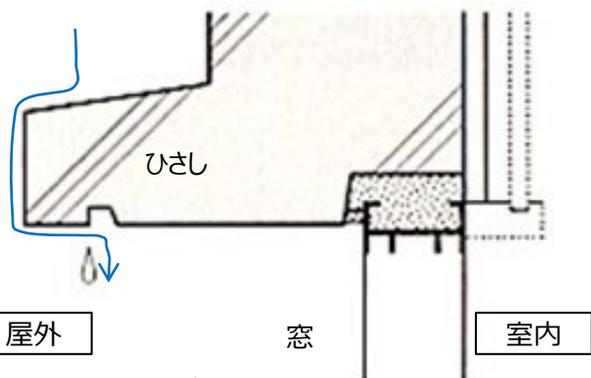
左右非対称 製品の用途



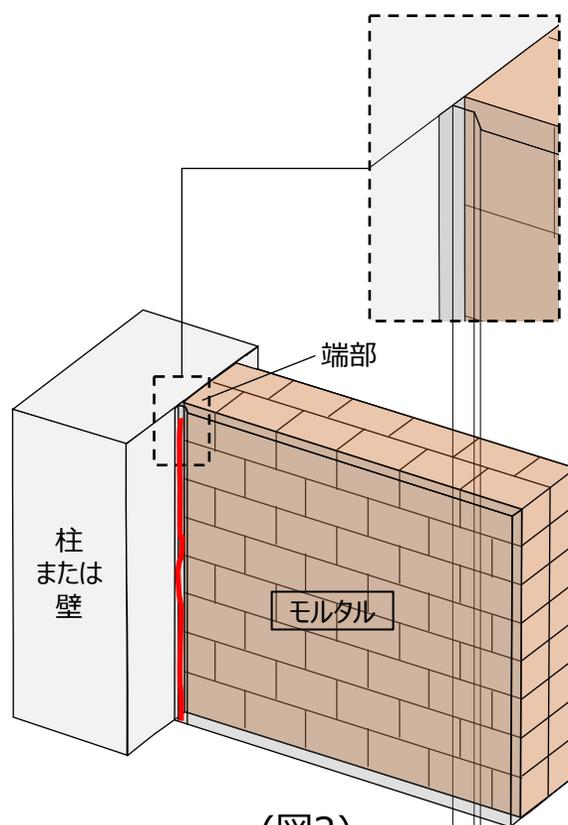
ケース 1 窓にひさしを設置する場合、雨水がひさしを伝って室内側へ侵入するのを防ぐために溝を設けます。溝がないと雨水が室内側に伝わってしまいます。(図1)

ケース 2 モルタル壁が他の柱や壁に接する場合、端部にひび割れが発生しやすくなります。ひび割れの発生位置を制御するために溝を設けます。溝が無いとラウンドにひび割れが発生し見た目も悪くなります。(図2)

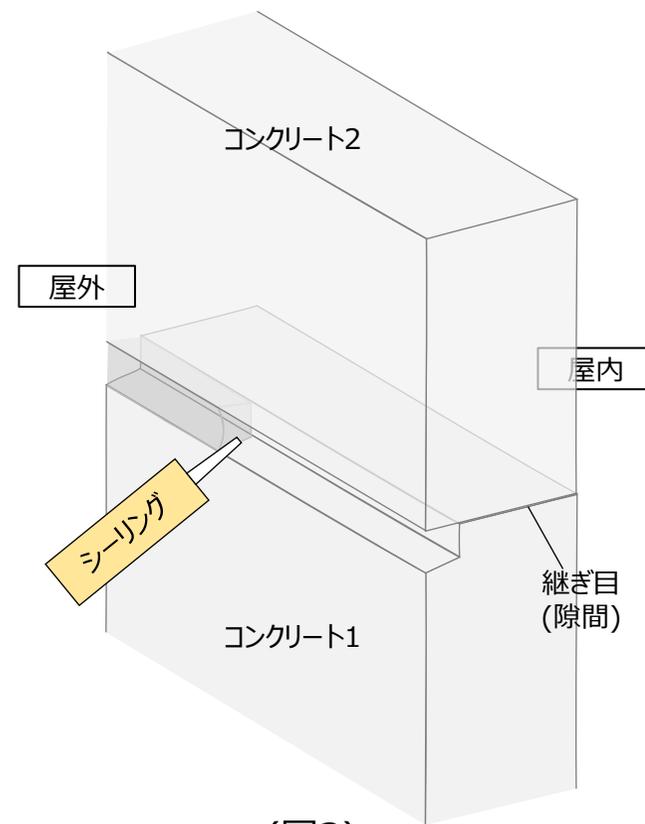
ケース 3 コンクリートを垂直に打設する場合、それらの接合部から雨水が浸入しやすくなります。接合部（隙間）に雨水が浸入するのを防ぐためのシーリング溝を設けます。溝が無いとシーリングができません。(図3)



(図1)



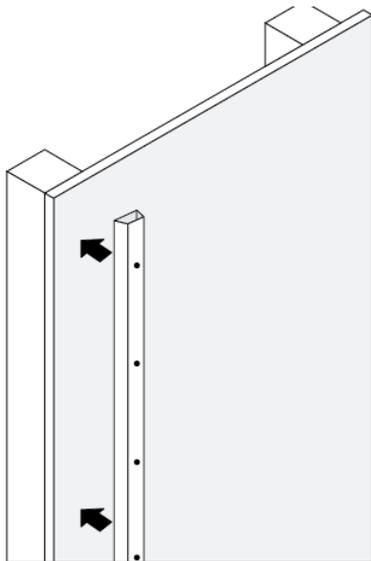
(図2)



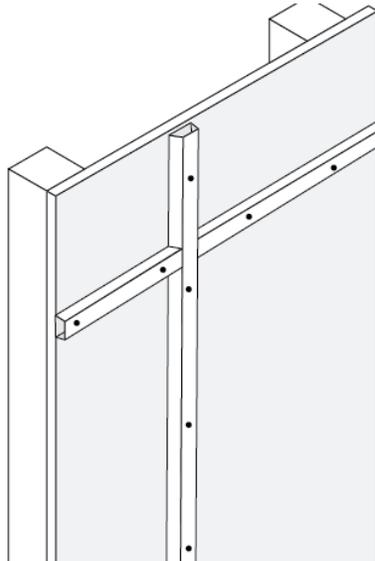
(図3)

● 施工方法（先付け施工）

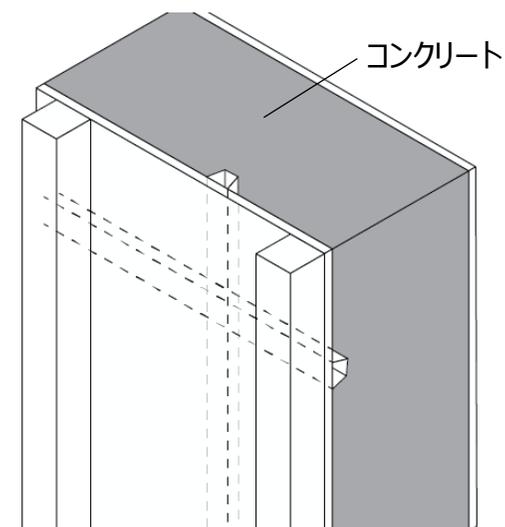
① 型枠合板に目地棒を釘で固定する



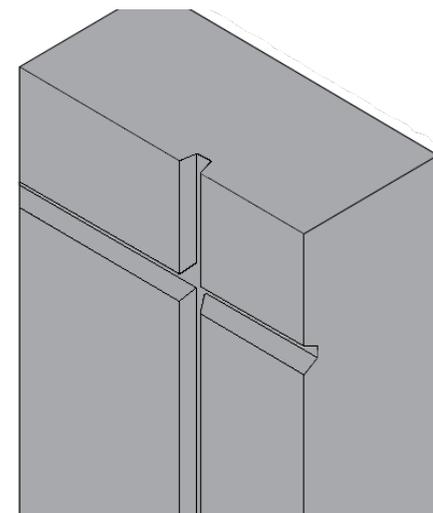
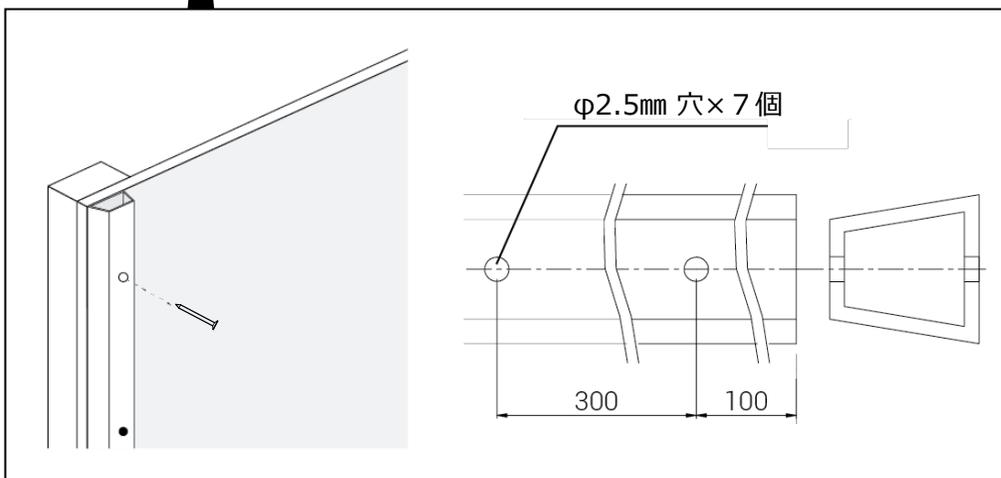
② 必要な箇所へ取り付け



③ 型枠にコンクリートを流し込む

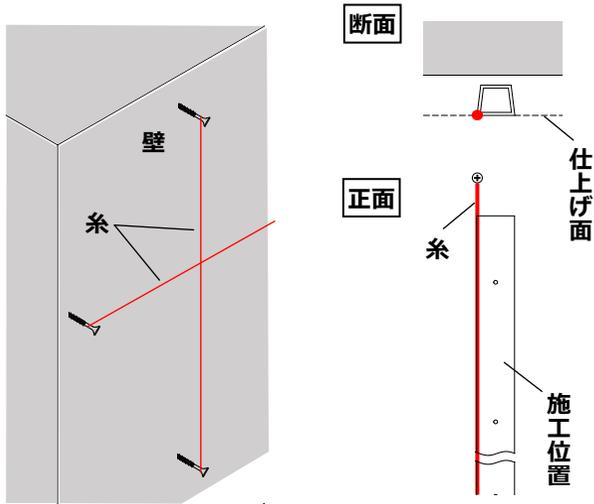


④ 目地棒を外して完成

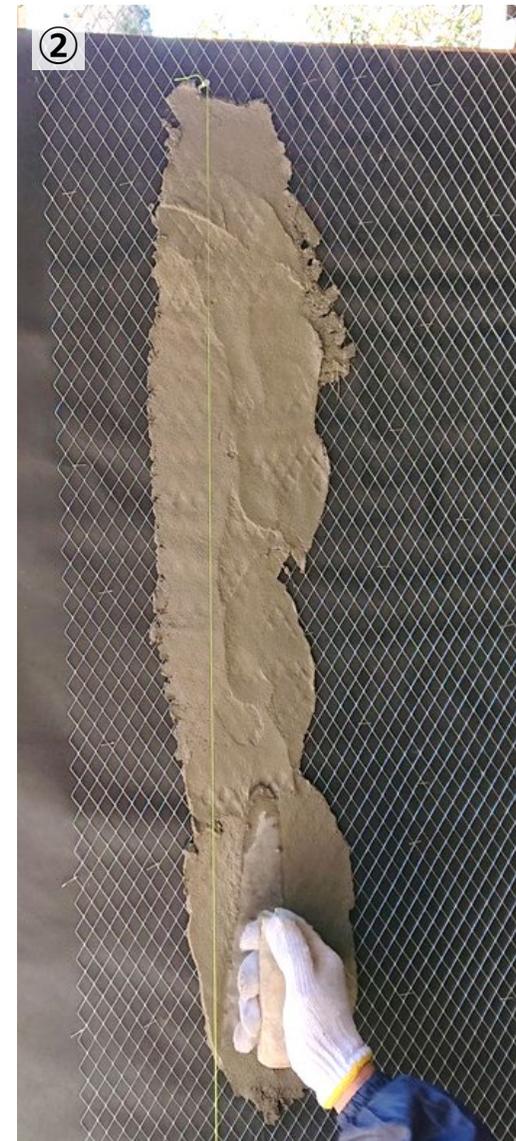
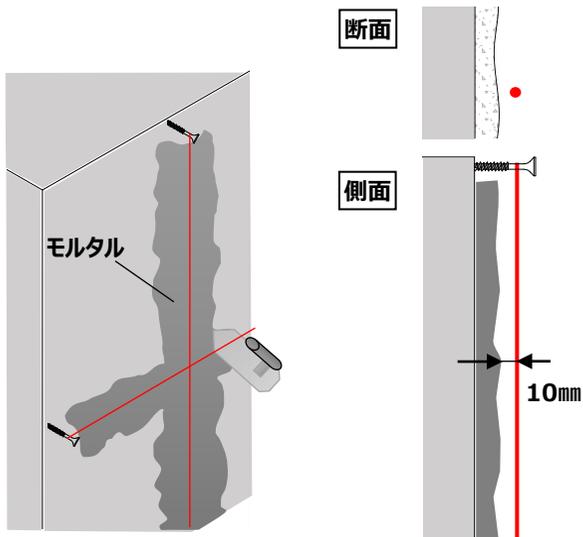


●施工方法（後付け施工）

①目地棒を施工する位置に基準の糸を張る。



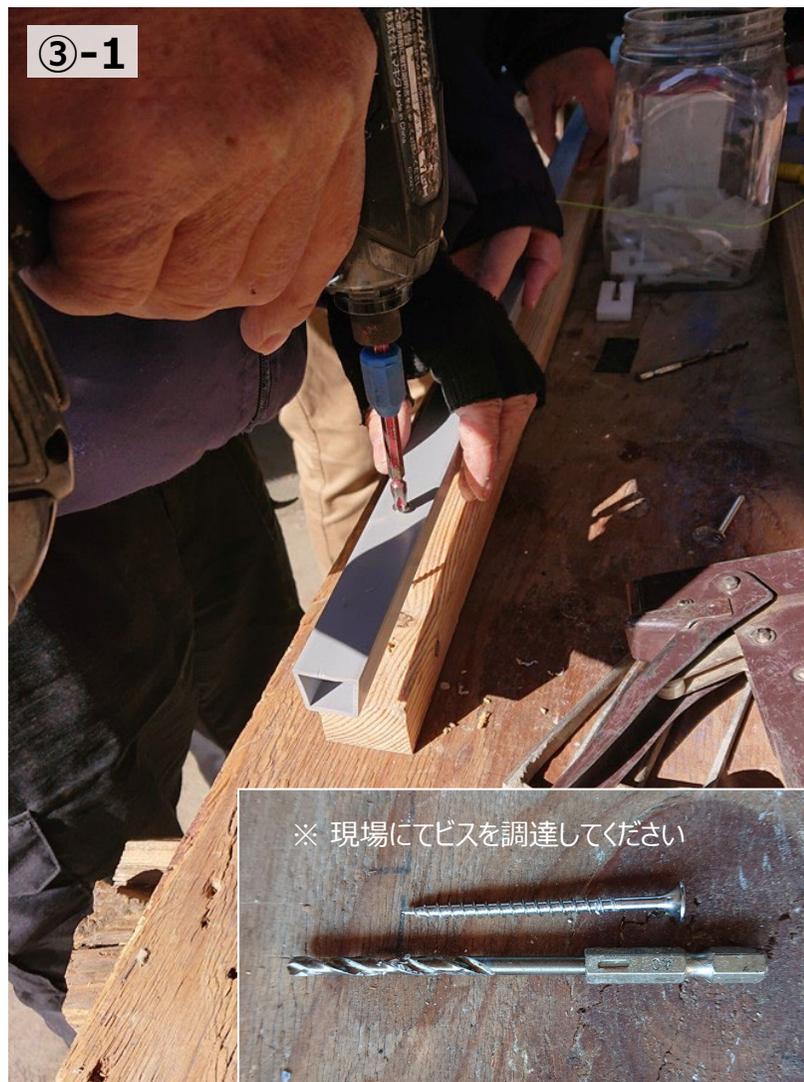
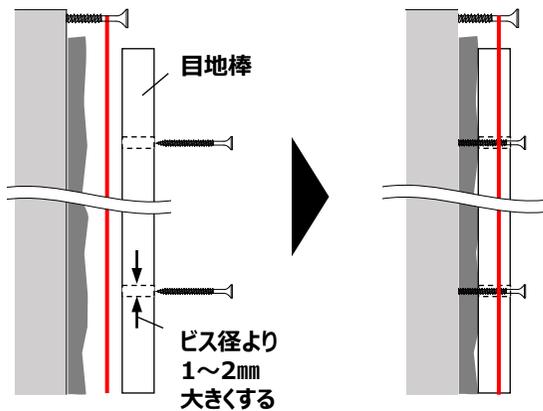
②施工位置に、糸から10mm離れた位置までモルタルを塗る。



●施工方法（後付け施工）

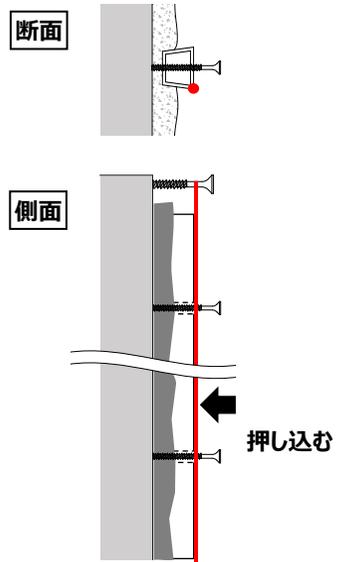
③目地棒をビスで固定し、落下しないように支える。

1. 事前に、ドリルで目地棒の両端の穴をビス径より1～2mm大きくする。
2. 壁にビスを打ち、目地棒を支える。



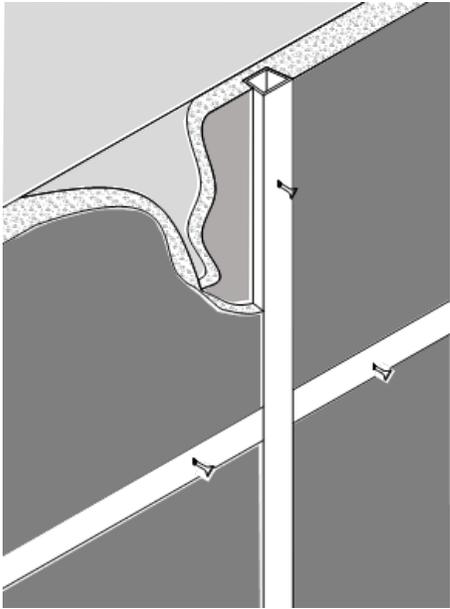
● 施工方法（後付け施工）

④ 目地棒を糸まで押し込む。

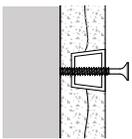


● 施工方法（後付け施工）

⑤ モルタル硬化後、糸を外し、目地棒に合わせて全体を仕上げる。



断面



モルタルを目地棒の
表面に合わせる。

OK

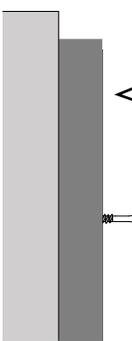


NG



塗りすぎ

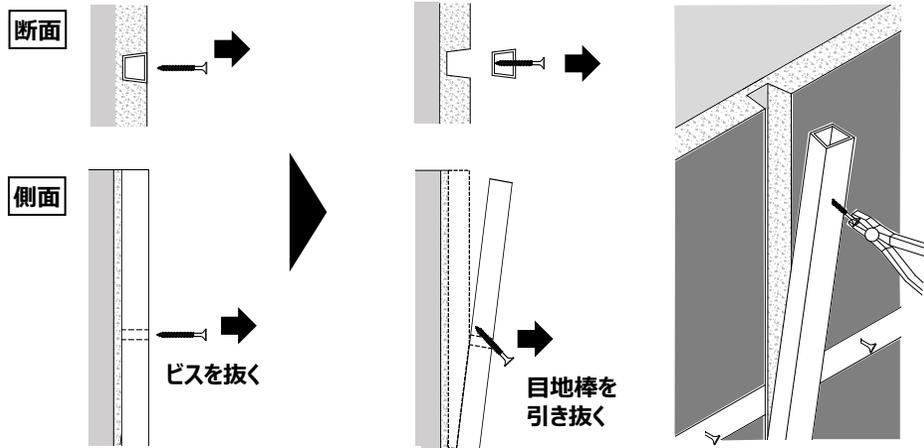
側面



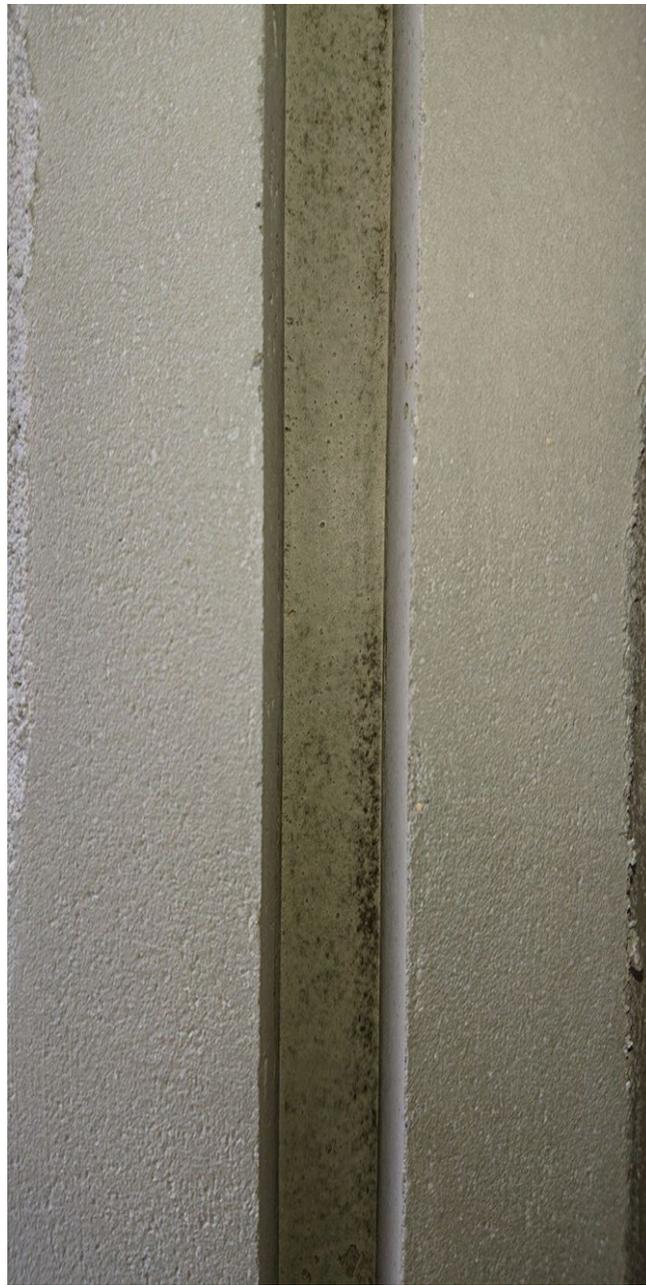
●施工方法（後付け施工）

⑥全体が硬化後、目地棒をはずす。

1. ビスを抜く。
2. 目地棒の穴にビスを斜めに入れて、ペンチなどで引き抜く。



●仕上がり（後付け施工）



元の小さい穴部分の見た目



大きくした穴部分の見た目
(補修必要)



● 施工例 <型枠目地棒>

■ オフィス (ベトナム/ホーチミン)



■工場 (ベトナム/バリア・ブントウ)

